



あやめ



防犯教室がありました

7月4日(月)、防犯教室(ネットリテラシー)が開かれました。今回の講師は、いつも身近で私たちの生活を見守ってくれている南アルプス警察署生活安全係の名取巡査長にお願いしました。



講演は「SNSなどにあげた写真などのデータは、自分の力では消去することができない」という話から始まりました。いわゆる【デジタルタトゥー】というものです。

多くの方はスマホやSNSの持つ特性・危険性を理解しているはずなのに、自分だけは加害者にも被害者にもならず(「正常性バイアス」といいます)、正しく使いこなしていると思い込み、知らないうちに大炎上してしまうことがあるので、常に注意してほしいという内容でした。

実際に、中高生の多くのSNS発信は、
*自分の生活がつまらないと思われたくない
*誰かと繋がってほしい
*楽しい自分をみんなに認めてもらいたい
などが主な動機であり、仲間内だけのつもりで動画や写真をアップしても、別のグループへ貼り付けるなどして、あっという間に拡散されてしまう現実があります。また、SNSの被害に遭っている人のおよそ90%が中高生であるという統計も見せて頂きました。

用意してくれたDVD動画では、
<若者が自分達だけでなくSNSを見た人も楽しめるように「おふざけ動画」を作成してアップしたところ、楽しめるどころか大炎上した>というものでした。

この事案の問題点は、この若者達は、
・「売れ残った商品なので、どうせ処分されるケーキ」という認識でふざけて始めてしまった(よかれと思った有効活用のつもり)。
・写真や動画を撮り、それをSNSにアップし、多くの人の目に触れた(「見た人も楽しめる」というよかれという気持ち)。
という点が挙げられるが、周囲や世間(SNSを見た人達)の反応は、
・とんでもなく、非常識
・この店の商品は買いたくない



など、批判が相次ぎ、そして誰かしらに、
*店の場所や個人が特定され、拡散された。
(これも拡散した人は「正義感から」が多いらしい)と、いくつもあげられるが、()に示したように、実に軽い気持ちで「自分が楽しいこと」⇔「周囲も楽しいこと」と思い違いをしている点が根本にあることを教えられました。」

また、スライドの中で、
*見知らぬ人が、自分のパソコンやスマホにコピーをすることも可能。
*匿名と思って書き込んでも、過去のその他の書き込みと照らして本人と特定されてしまうことがある。
*たとえ仲が良い人でも、写真を送った後に関係が崩れると悪意ある使い方をされるかもしれない。
など、眼に見えないところでもやりとりは、本当に注意を払っていかねばならない、と注意喚起をしてくれました。



期末テスト&到達度テストを終えて

1学期の期末テストがありました。

中間テストの反省(Check)を生かした改善(Act)から計画をしっかり立て(Plan)取り組みができた(Do)ことと思います。納得のいく結果が出るといいですね。さらにPACDサイクルを重ねていくことが大切です。また、5日(火)には到達度テストがありました。範囲は広く抽象的(分野が示されているだけ)になっているということは、これまでの学習内容が本当に定着している(長期記憶)かが試されているということです。特に3年生にとっては、これからの進路選択の指針となるものになります。十分な取り組みはもちろん、その結果をしっかり受け止め、次にどう生かすかという意識を持ちたいものです。

ここで注意したいのは、学習の成果を急がないことです。例えば英単語を100個覚えたからといって、2、3日後に英語がペラペラと話せるわけがないことはわかんと思います。学習に効率の良い学習法はあっても、即効性のある学習法はありません。脳科学者の池谷裕二氏は、学習成績は累積的に伸びていくものであると著書の中で述べています。 $2^0=1$ わかるようになったら次は $2^1=2$, $2^2=4$, $2^3=8$, $2^4=16$, $2^5=32$, $2^6=64$ ・・・と伸びていくのだそうです。ただ、多くの人がこの段階で成果に満足できず努力をやめてしまうのだそうです。そこであきらめず、忍耐強く勉強を繰り返すことのできる人が、その後も成績を128, 256, 512, ...と伸ばすことができ、ここまで努力をして、ようやく勉強の効果というものを目に見えて確認できるようになるのだそうです。

継続する力こそが学習の本質なんだと思いいたりました。私も「多くの人」の一人であり、今となっては後の祭りですが、皆さんには後悔することのないよう、学習を進めてほしいと思います。

(『記憶力を強くする 最新脳科学が語る記憶のしくみと鍛え方』講談社ブルーバックス参照)



研究授業が行われています

~私たち教職員も

授業改善などのPDCAに取り組んでいます~

櫛形地区では、「くっしータイム(小学校では「あやめっ子タイム)」というスリンプルプログラム(スリムでシンプルなソーシャルスキルトレーニング)と、それを足掛かりとした「学び合い」の学習活動に、小中一貫校の柱のひとつとして取り組んでいます。

7月8日(金)には、スリンプルプログラムの発案者である曾山教授(名城大学)をお招きし、その成果と現状を参観してもらい、助言をいただきました。その後講演会を小中合同で聴き、今後さらに生かすことができると考えています。この日は吹奏楽コンクールの1週前で、櫛形小中教職員を観客に見立てて、吹奏楽部員が演奏リハーサルを披露してくれました。素敵な演奏をありがとうございました。当日の演奏も楽しんでください。

7月6日(水)は中巨摩全体で教科別研究会でした。

7月4日(月)は3年5組で研究授業(数学・小林T/竹野T)が行われました。授業は「(因数分解を活用した)2次方程式の解き方」というもの。因数分解は既習事項であり、「0との積」のコツをつかめた生徒はどんどん解くことができ、また因数分解が苦手な生徒もこの時間に復習ができ、思い出すことができました。何よりも、ワンポイントの説明を聞いた後、「誰一人、取り残すことなく」仲間と協力する様子や、「個別最適化」を意識してか、一人で課題との対話を楽しんでいる生徒がいるなど、全員がそれぞれに楽しんでめあてに向かって学習していました。「教えて、教えて~」だったり、「わかったあ~！」だったり、教室のあちらこちらでお互いの考えを示しあいながら答えに迫る活動を進めていて、皆が前向きに学習に取り組んでいる姿勢に、参観させていただいた私達本校の教職員も楽しませて頂きました。その後は、授業に関する研究会と、「学びを楽しむ」ことに関するご指導を市教委の清水指導主事からいただきました。21世紀を生きる子供たちに必要な力を育成するために、今後も研究と研鑽に努める思いを強くしました。

さらに、年間を通じ、本校の教職員同士で授業を見合う取り組みをしています。お互いにアドバイスをしたり、良いところを取り入れるようにしています。特に7月は、多くの授業の交流をしています。

